

「職場のリアルな実態から選挙を考える」②

〜精神保健福祉士・Mさん〜

私

は、横浜市内で心の病を持った方々の相談支援の仕事をしています。相談者は、働きたくても障害のために働き続けることが困難で生保と障害年金で生活する人が大半です。「生保を受けることは世間の人に申し訳ない」「まともに働けない自分は情けない」「生保が切り下げられ住宅扶助まで減らされてどこまで弱者を苦しめるんだ」そんな声が日常的に聞かれます。ほんの一部の不正受給者の報道がされることで本当に必要とする受給者が肩身の狭い思いをしていることに心が痛みます。

職

場のスタッフはひとりひとりに寄り添い、支援計画をたて、カンファレンス

をし、細やかな支援を繰り返しています。

それにもかかわらず福祉予算削減、人件費削減の中、福祉労働者の低賃金は当たり前になってきています。熱い思いで就職しても生活の厳しさに働き続けることへの不安を常に抱えています。安倍首相や厚労大臣に現場を見て、福祉労働者の仕事を知ってもらいたい！生保受給者の生活を見てもらいたいものです。

弱

い立場の人の声を届ける
日本共産党の議員さんの活躍がどうしても必要だと強く感じています。

介護・福祉労働者の処遇を改善するため、県独自の支援をおこないます。〈日本共産党の県議選重点政策より〉